

[報 告]

2006年国際剣道・居合道・杖道講習会報告

大坪 壽*

A report on International Kendo, Iaido, and Jodo Seminar in 2006

Hisashi OTSUBO*

1 はじめに

本年度九州共立大学（以下本学）、本学同窓会および外部団体の資金を得て海外出張として参加することができた国際剣道・居合道・杖道講習会について報告するものである。

ヨーロッパにおける剣道関係の冬期講習会は、2006年で第15回を迎えるということであるが、筆者は1998年から講習会講師として剣道の国際的普及に努めている。ベルギー・ブリュッセル市をメインにし2002年はイタリア・ベルガモ市、2004年はイタリア・パレーゼ市でも講習会を開催した。夏期講習会は毎年行われていたわけではなく、筆者は1999年イタリア・ビゼンツァ市、2005年からのスウェーデン・マルム市およびベルギー・ブリュッセル市での講習会を経験した。

筆者が関わりだした1998年はヨーロッパ剣道連盟剣道講習会として開催され、2003年から国際剣道・居合道講習会として開催されるようになり、2005年から杖道の講習が加わった。

この講習会講師は、ヨーロッパ剣道連盟会長アラン・デカルメ、同事務局長ラルフ・ベルナルからの招聘であるが、その窓口になっているのがNPO法人国際社会人剣道クラブである。この団体は剣道の国際的普及に最も早くから取り組み、現在の世界選手権につながるもの作り上げた団体である。

2 スカンジナビアン・サマーセミナー

中世の建造物が多く残されているデンマーク王国の首都コペンハーゲンから海をまたぐ橋を利用し35分でスウェーデン第3の都市マルム市（日本の多くのガイドブックではマルメと書かれている）に入り、ヘーレンホルム体育館で第4回を迎えるスカンジナビアン・サマーセミナーが8月18日から20日の3日間開催された。地元スウェーデンのほか、同じ北欧のデンマーク、ノルウェーやイタリア、ギリシャ、フランス、ベルギー、オランダ、ドイツ、イギリス、アイルランドの11ヶ国から約100名の受講生が集まり剣道と居合道の講習会が盛大に行われた。

講習は午前8時から11時まで、午後は2時から5時までの6時間に及ぶハードな日程であるが、いつものことながらヨーロッパ剣士の真剣な取り組み、疲れを知らない体力には驚嘆させられた。

指導内容は基本技を中心に、しかけ技、応じ技の対人技能を基本に忠実に徹底的に指導し、将来につながる正しい剣道の普及に努めた。その成果は顕著に現れ、二・三段レベルの剣士と女性剣士が目を見張る上達振りを示した。

最終日は9時半から個人戦男女オープンのスカンジナビアン剣道大会を試合時間4分三本勝負で開催し、54名の精鋭が実力伯仲の好試合を展開した。決勝はLisa VANLAECKENとYosuke UEDAの男女対決

*九州共立大学スポーツ学部

*Kyushu Kyoritsu University Faculty of Sports
Science

となり女流剣士ヴァンラーケンが初の栄冠を獲得した。この大会を前にヴァンラーケンは7月中旬から本学はじめ楽之館道場や北海道で猛暑の中研鑽を積んだ成果が出たものと思われる。

3 国際親善剣道・杖道夏期講習会

8月22日にコペンハーゲン経由で国際剣道・杖道夏期講習会が開催されるベルギーのブリュッセル市に移動した。ヨーロッパはちょうどバカンスの時期であるが、それをそこそこに切り上げて集まった多数の剣道愛好家が待ち受けていた。スウェーデンでの講習に引き続きのドイツやベルギーの剣士のほか新興国スロベニアから12名、イタリア、フランス、トルコ、スペインやルクセンブルクなどの国から剣道150名、杖道40名が真摯な態度で受講した。

今回の講習会の特徴は、杖道愛好者たちの要請を受けて剣道とともに杖道の講習を設けた点で、日本の伝統文化である武道に対する関心の高さと日本武道を貪欲に習得しようとする熱意に感心させられ、ヨーロッパの文化と生活習慣のなかでの日本武道の国際的普及発展の重要性を改めて認識させられた。

8月23日から27日までの5日間の講習は、先のスカンジナビアン・サマーセミナーと同様に基本技を中心にしかけ技・応じ技の対人技能を基本に忠実に徹底的に指導した。また26日にはブリュッセル市から約1時間離れたアントワープに近いセント・ニコラスにあるデ・ホワイト・モーレン（白い風車）スポーツホールに移動し実施した。ここはヨーロッパ剣道連盟事務局長のラルフ・ベルナルが主催するTAMIZA（民座）剣道クラブの稽古会場である。このたび「第15回タミザ剣道カップ2006」が開催される関係で、全ベルギー剣道連盟の要請で午前中審判講習会を行い、午後は審判実技実習を兼ね大会を実施した。大会は先鋒（無段者）、中堅（初段～三段）、大将（四段以上）、の3人制で32チームが出場し熱戦が繰り広げられ、小鹿クラブが小鹿・イタリア混成チームを接戦の末下し優勝を飾った。

午前中の講師陣の懇切丁寧な指導と受講者の熱心な実習で、大会はスムーズに進行し審判員席での態度、立ち居振る舞い、所作、有効打突の判定基準を含め、1試合ごとの講師陣の指導・チェックにより、初めて審判員を務めたヨーロッパ剣士の審判技術も向上し、自信を持てるようになったと大好評であった。この審判講習会の実施は筆者の経験では初めてであり、これ

も今講習会の特徴のひとつにあげられる。

最終日の27日は午前中講習の後、審査会を実施し初段二段の審査を担当した。受審者は初段10名、二段6名で皆講習会の成果を遺憾なく発揮し、内容が良く特に日本剣道形はすばらしく全員合格をした。

4 国際剣道・居合道・杖道講習会

ウインター・セミナーとして開催されてきた本講習会も15回目を迎え、全ベルギー剣道連盟・ヨーロッパ剣道連盟・日本大使館・国際社会人剣道クラブ共催「第15回国際剣道・居合道・杖道講習会」は、12月13日の午前6時30分からの朝稽古で開幕し19日までの日程でベルギー・ブリュッセル市のADEPSスポーツセンターで行われた。遠来のオーストラリア、ニュージーランド、ハワイや韓国を含む23カ国から受講生が集まってきた。

講習は剣道、剣道初心者、居合道、杖道に分かれて実施し、剣道の講習を担当し例年通り基本技を中心にしかけ技・応じ技の対人技能を基本に忠実に徹底的な指導を行った。これらの成果は12月8～10日に台湾・台北市で行われた第13回世界剣道選手権大会でも正統派の質の高い剣道と高い評価を得たといわれている。

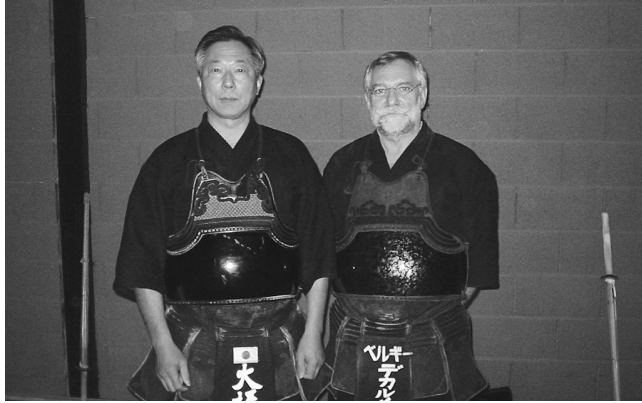
12月16日16時からは審査会を実施し、初段12名受審11名合格、二段14名受審全員合格、三段9名受審8名合格、四段16名受審7名合格、五段11名受審2名合格であった。ヨーロッパでは四～五段は高段者であり、元立ち稽古が多くなり上掛りが少なくなるためこのような結果が出るものと思われ、今後の課題として考えるべき点である。

翌17日は午前9時から全ベルギー剣道連盟・ヨーロッパ剣道連盟・日本大使館・国際社会人剣道クラブ共催の国際親善剣道選手権大会を開催し、女子個人ではS KUMPE（オランダ）がL VANLAECKEN（ベルギー）を、男女オープンではG MINNAERT（オランダ）がS BOUSIQAUE（フランス）を、団体戦ではBELGIUM 3（ベルギー）がLILLE 2（フランス）をそれぞれ下して優勝した。

5 終わりに

今後はヨーロッパでの高段者の剣道の修練のあり方を説き、講習会には出席せず試合だけに出場するようなチームに見られがちな試合本位の剣道にならないようにさらに留意して講習に努めることにより、ます

まずヨーロッパの剣道が正しく普及・発展し、隆盛していくことを願っている。



欧州剣連アラン・デカルメ会長と



講習風景



受講者



リサ・ヴァンラーケン選手と